

ZANDEN Model 120 の展開(76) ーベートーヴェンを聴き直す(11)ー

1. 始めに

前報(75)に引き続き、これまで聴いてきたベートーヴェンの盤を聴き直していきます。

2. Model 120 設定条件の試聴方法

カートリッジは、My Sonic Signature Gold で、接続に関しては、ZANDEN Model 120 の活用(33)同様、下記のとおりとします。すなわち、アンバランス/バランス変換プラグを用いて BACU-2000 経由で Model120 にバランス入力し、アンプは Langivin 6V6pp を使用しています。

今回も P&G のフェーダーに替えてパッシブアテネーターの TruPhase を使用し、RCA 入力→RCA 出力とします。なお、AACU-1000 は TruPhase の入力側と出力側にセットします。

LINN LP-12→(フォノケーブル)→(アンバランス/バランス変換プラグ)→(BACU-2000) →Model120(バランス入力端子→アンバランス出力端子)→(アンバランスケーブル)→(AACU-1000)→TruPhase→(AACU-1000)→(アンバランスケーブル)→Langevin 6V6pp

なお、LINN LP-12 の再構成(22)で報告しましたように LP-12 の電源を交換し、外付けとしています。また、LP-12 の軸受けをカルーセルに更新しています。

音源としては、これまで聴いてきたベートーヴェンの盤から選んでいきます。

今回は、ベートーヴェンのピアノソナタの下記を選定しました。

TRIO RECORD PA-1117(シャルラン)

ピアノソナタ 28 番作品 101

ピアノソナタ 30 番作品 109

エリック・ハイドシエック

TRIO RECORD PA-1116(シャルラン)

ピアノソナタ 31 番作品 110

ピアノソナタ 32 番作品 111

エリック・ハイドシエック

上記は下記で報告しています。

[アナログ再構成後の活用\(27\)](#)

[アナログ再構成後の活用\(28\)](#)

3. Model 120 設定条件の試聴結果

Model 120 の設定は、ZANDEN 社から提供されたリストを参考にして選択していきます。

上記両盤とも、EMI、逆相、第 4 時定数 Low で聴いていきます。

ハイドシェックのピアノは膨らみのある音で、緩急、抑揚をつけた抒情的なピアノイズムです。ジャケットにスタンウェイ使用と記載されていますが、低音部にも鋭角的な音がしないのは、もともとが、シャルランレコードであり、ワンポイント録音のためかもしれません。

TRIO RECORD PA-1117 のピアノソナタ 28 番とピアノソナタ 30 番は、ハイドシェックの抒情的な表現が活かされています。

TRIO RECORD PA-1116 のピアノソナタ 31 番は、抒情と熱情が交叉し、ハイドシェックが弾き分けて行きます。

TRIO RECORD PA-1116 のピアノソナタ 32 番は、激情と軽妙な表情が交叉し、ハイドシェックが詩情豊かに表現して行きます。

4. まとめ

前回の試聴以降、前報(24)で報告しましたように ZANDEN Model 120 の導入などの効果があって、上記の曲の演奏のニュアンスがよく表現できるようになりました。

以上